

2003年度事業計画

(社)「家族の会」は会結成から24年目を迎える。20世紀最後の20年間は、「家族の会」が誕生し、「ぼけ」と介護者への理解が進んだ時代であった。

21世紀には、真にぼけても安心して暮らせる社会の実現を願って、「家族の会」はこれからも「すべてのぼけの人と家族を支え、ケアの質の向上を求める」活動を推進していく。

特に2003年は、介護保険制度にとって大きな節目の年と言える。2003年4月には介護報酬の改定および介護保険事業計画に伴う介護保険料の改定などの見直しが実施され、「制度施行5年後を目途とした制度の見直し」に向けた審議が行われる。

(社)「家族の会」としては、利用者に真に役立つ制度となるように監視し、積極的に改善への意見を提案する。

ぼけの人が人間らしく生きられるように、サービスの量とともに、質の向上が図られるよう、グループホームの第三者評価にもかわりながらぼけの人の人権を尊重されたサービスが受けられるように努力していかなければならない。

また、2004年にはADI国際会議「国際アルツハイマー病協会第20回国際会議・京都・2004」が開催される。組織をあげてこの国際会議を成功させるよう努力するとともに、世界各国の人たちを迎えるにふさわしい組織の充実が必要であり、今一度「家族の会」の原点をしっかりと見極め、全支部が自らの支部の拡充に取り組みなくてはならない。

A. 啓発・研修

1. 世界アルツハイマーデーへの取り組み

世界アルツハイマーデーの取り組みは、10年目を迎え「ぼけ」の理解と正しい知識の普及のため積極的な取り組みを展開する。

(1) ポスター、リーフレットの作成

リーフレットは、全国一斉街頭活動、記念講演会を中心に配布する。

ポスターは行政、関係団体に配布して掲示を依頼する。

(2) 全国一斉活動は、9月21日(日)世界アルツハイマーデー当日に実施する。

(3) 9月21日の世界アルツハイマーデーを中心に本部(京都・東京)、支部主催の記念講演会を実施する。支部主催で開催する世界アルツハイマーデー記念講演会には、実施支部に助成金を支給する。

(4) 「ADI第20回国際会議・京都・2004」の呼びかけ・PRを実施する。

(5) 世界アルツハイマーデーフォーラム(朝日新聞主催、エーザイ協賛)

に協力し、開催地の支部より「痴呆相談」に相談員を派遣する。

2. 研修会

(1) 電話相談研修会(フリーダイヤル)

電話相談員に対する研修会を定期的実施する。(年2~3回)

(2) 講師の派遣

アルツハイマー病、介護保険、痴呆の人の権利擁護等をテーマとした講演会、研修などの講師要請に積極的に対応する。

3. ブロック会議の開催

全国の支部を6ブロック(北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州)に分けてブロック会議を実施する。会議の内容は 全国共通テーマの設定、 支部提案テーマの協議 電話相談などの研修会を実施し、各支部間の交流を図る。

B. 介護保険、成年後見制度、人権擁護に関する取り組み

介護保険・社会保障専門委員会、サービス評価・権利擁護専門委員会を設置し、各委員会ごとに本年度の取り組みテーマを設けて積極的に取り組む。

1. 介護保険・社会保障専門委員会

(1) 2003年4月から要介護認定方法および介護報酬の改定、介護保険料の改定などが実施された。このことがぼけの人と家族に対してどのように影響したか、サービス

の質、量がどのように変化したかの実態調査を実施する。(7月アンケート調査実施)

- (2) 上記調査結果を基に、会員の声を反映させた要望書を厚生労働大臣に提出し、介護保険見直しについての提案、意見を行う。
- (3) 総会分科会、代議員会、ブロック会議を通じ、制度の検討、情報提供を積極的に行う。
- (4) 会報「ぼ~れば~れ」を通じて、介護保険に対する情報を解説を加え、わかりやすく会員に提供する。

2. サービス評価・権利擁護専門委員会

2002年度からグループホーム外部(第三者)評価が義務付けられ、「家族の会」からも多くの評価調査員が誕生している。支部や調査評価員の実態を調査して、グループホームを始めとして施設のサービスの質の向上を求め、「家族の会」の対応のあり方を検討する。

- (1) 支部および評価調査員に対してアンケートによる意識調査を実施する。
- (2) 「家族の会」推薦の評価調査員に対しての情報提供と研究会などを実施する。
- (3) 総会、代議員会、ブロック会議などで制度の検討・情報提供を積極的に行う。
- (4) 会報「ぼ~れば~れ」を通じて、逐次情報を提供していく。

C. 若年期痴呆に対する取り組み

若年期痴呆の対応は、どのように支援していけばよいのか重要で緊急の課題である。

1. 支部のつどい、電話相談の強化

- (1) 若年期痴呆のつどいを開催する。
- (2) 電話相談担当者への情報提供と研修会の開催
- (3) 総会分科会、代議員会、ブロック会議で支部のつどいの持ち方、対応の仕方について協議する。

2. 会報「ぼ~れば~れ」を通じての情報提供

医学的な知識や若年期痴呆のつどいの実施状況などの情報を積極的に提供する。

D. 組織・財政に対する取り組み

2002年度組織・財政専門委員会は、各支部に対して組織の意識調査を実施した。その結果に基づいての具体的な対応と支部に対する助言を行っていく。

1. 未組織県への対応

- (1) 2002年度の実績を踏まえ、茨城県支部が誕生した。2003年度は沖縄県支部に重点指導をはかり2004年度沖縄県の支部誕生を重点目標として取り組む。
- (2) 青森、栃木、福井、山口、香川の各県に対しても積極的に働きかけていく。

2. 100名未満支部への指導強化

100名未満支部の不振の原因を探り、個別に指導を実施する。

3. 100名以上の支部で停滞または組織が下降している支部に対しては具体的な対応を図り、「家族の会」組織全体の底上げを図っていく。

4. 世話人の育成は、支部運営の要である。世話人の育成について総会、代議員会、ブロック会議などで協議・検討を行う。

5. 財政の安定化

会員拡大による会費の増収を図りながら、助成金の確保にも努力する。
適正な予算化をはかり、無理、無駄な支出の排除に努める。

E. 相談・支援活動

「家族の会」が実施する本部・支部の相談事業に積極的な取り組みを実施していく。

1. 支部活動の支援

支部主催の「つどい」、電話相談、ぼけの相談等の活動を支援するため1支部30,000円を助成する。

2. 本部電話相談（フリーダイヤル）

2000年度から2002年度まで社会福祉・医療事業団の助成を受けて実施してきた本部電話相談（フリーダイヤル）は完了したが、2003年度より住友生命、ファイザー製薬の助成で継続実施することが可能となった。本部と支部の電話相談の連携を強め、「家族の会」電話相談事業の一層の強化を図る。

- (1) 電話相談体制の見直し、効果的な電話相談を実施する。
- (2) 全国エリアの電話相談を実施する。
- (3) 電話相談担当者の研修会の開催。
- (4) 支部の電話相談との連携を強化する。

3. ブロック会議の開催

- (1) 全国の支部を6ブロックに分けて実施する。
- (2) 支部の日常かかえる問題について協議・意見交換を行う
- (3) 全国共通テーマを設け、「家族の会」がかかえる問題について意見交換を行い、支部へ必要な情報の提供を行う。
- (4) 電話相談、つどい、若年期痴呆など各ブロックに応じた研修会を開催する。
- (5) 支部間の交流と親睦を深める。

F. 「国際アルツハイマー病協会第20回国際会議・京都・2004」の取り組み

1年後の国際会議を成功させるために家族の会の組織を挙げて積極的な取り組みを実施する。国際会議組織委員会の活動に順応して「家族の会」としての具体的な活動を推進していく。

1. Second Announcement の編集、作成、配布

- (1) 国際会議事務局は、ポスター、Second Announcement を作成し広報活動を開始する。
- (2) 10月のADI第19回国際会議（ドミニカ共和国）で世界各国からの参加者に配布し、日本での国際会議参加を積極的に呼びかける。
- (3) 関係団体になどに配布して、国際会議への参加を呼びかける。

2. 組織委員会、各部会の開催

- (1) 第3回組織委員会を開催（8月）
- (2) プログラム部会、総務部会、財務部会を開催し、国際会議開催についての詳細を検討する。

3. 関係団体への協力依頼

関係団体に対しての後援要請と補助金、助成金の支援活動を積極的に行う。

4. 国際会議ホームページの開設

国内、国外向けのホームページを開設し、国際会議の内容、会議参加への呼びかけを積極的に実施する。

5. 国際会議の積極的な広報

- (1) 2004年日本国際会議のポスターを作成する。
- (2) 国際会議のバッジを作成する。
- (3) 国際会議案内用のビデオを作製する。

6. 全国支部との連携による取り組み

2004年国際会議を成功させるためには、家族の会の組織を結集して取り組むことが重要である。特に全国の支部・会員の意識と協力が不可欠と考える。

- (1) 家族の会本部・支部・会員が一体となって国際会議開催へ向けて取り組む。
- (2) 支部が日常かかわる自治体、団体に対して国際会議開催の意義を広め、国際会議参加への呼びかけを実施する。
- (3) 各種団体へ寄付金の呼びかけと協力依頼を実施する。
- (4) 会報「ぽ～れば～れ」ホームページを通じて国際会議の進捗状況や情報を提供して国際会議への意識を盛り上げる。

G. 家族の会ホームページの充実

1. 家族の会ホームページ

「家族の会」ホームページは、毎年アクセス数も増加している。1日平均300件を超え、痴呆専門のホームページとして高い評価を受けている。

さらに内容の充実を図り、リニューアルした。

(1) リニューアル

見やすいホームページとしてデザインとレイアウトを更新する。

各ページの更新と管理は専門業者に委託する。

(2) 内容の整備

家族の会の活動、介護相談、痴呆の情報、入会案内等介護者に分かりやすく、見やすい内容にする。

国内、海外の諸団体とリンクして幅広い情報を提供する。

(3) ホームページ編集委員会の設置

2. こども向けホームページ

2002年度にこども向けホームページを開設し、順調に推移している。1日平均200件のアクセスを記録、関係者から高い評価を得ている。本年度はさらに内容の検討と見直しを図る。

(1) 教材としての内容の見直し

学校での教材としての活用ができるように工夫する。

子どもの作文なども組み入れ理解しやすいように工夫する。

こども、教育者の感想、意見をもとにして内容を検討する。

(2) 広報

2002年度は、マスコミを中心とした広報で一般家庭に対する広報はできた。

学校教育の場に浸透するよう広報のあり方を検討し、積極的に働きかける。

(3) 英語版の検討

2002年度ADI国際会議に出席して、海外にもこども向けホームページの関心が高いことがわかり、英語版について前向きに検討を進める。

H. 会報「ぼ～れば～れ」の発行

会報「ぼ～れば～れ」の編集は、編集委員会で基本方針を確認し、年間の編集内容を決定する。毎月の編集会議で各号の内容を決定して発行している。

(1) 表紙の体裁と記事内容を充実して、読者に読みやすく、親しみやすい会報を目指す。

(2) 会員の声を反映できる「会員のお便り」欄を充実させ、会報を通じ、会員間の交流を図る。

(3) 痴呆の幅広い情報を提供して、介護家族への支援を行う。

I. 調査・研究

「ぼけの人の思いを知る」調査・研究（三井住友海上福祉財団助成）は本年も継続して調査を進める。さらに厚生労働省の補助金を受けて、「老人保健健康増進事業調査研究」を実施する。

1. 「ぼけの人の思いを知る」調査研究（調査研究期間02/8～03/7）

(1) 昨年アンケート調査した結果を03/7月に纏め上げ、助成団体に報告する。

(2) 調査の結果は、会員には会報「ぼ～れば～れ」に掲載し、調査結果を報告する。

(3) 学会向けに調査の結果を論文にまとめる。

(4) 調査の結果は、痴呆の人の思いや介護者の貴重な生の記録である。調査の結果を「家族の会」の貴重な出版物として発行する。

(5) ぼけの人本人・家族への面接調査（調査期間03/8～04/3）

アンケート調査の結果をもとにして、痴呆の人本人（初期の段階）と家族に

対しての面接調査を実施する。

面接調査員は、理事、支部世話人の中より公募し、申出者で調査・研究を進めることを原則とする。

面接調査員には、調査の趣旨、手法などを理解できるように事前に説明会を行う

面接調査員は、調査結果を持ち寄り、全員で結果を検討して報告書を作成する。

2. 03 介護保険改定に伴う介護報酬および介護保険料改定の実態調査研究事業（厚生労働省老健局計画課補助事業）

2003年4月より、要介護認定方法および介護報酬の改定、介護保険料の改定が実施される。介護家族は今回の改定をどのように受けとめ、期待しているかを介護家族の声を中心にその意識と実態を調査する。

(1) 介護保険・社会保障専門委員会が調査研究のメンバーとして実施する。

(2) 介護保険改定に伴う実態調査は、「家族の会」会員で現在介護中の家族を対象にアンケート調査を実施する。(7月)

(3) 調査結果をもとに、介護保険の浸透度、介護保険への期待、問題点を把握することにより、制度改善への意見・要望をまとめて、介護保険改善の提案を実施する。(要望書の提出)

J. 全国研究集会

第19回全国研究集会は、島根県支部が担当して下記の内容で実施する。

ぼけの人と家族を援助する

第19回全国研究集会

テーマ 高齢社会で共に生きる地域作りを

～ぼけと家族とお隣さん～

日時 2003年11月2日(日) 9:30～16:00

内容 基調講演と特別報告 事例発表と全体討論

主催 社団法人 呆け老人をかかえる家族の会

<国際名：日本アルツハイマー病協会>

担当 社団法人 呆け老人をかかえる家族の会 島根県支部

K. 日本興亜福祉財団助成交流・研修

(財)日本興亜福祉財団の助成を受けて、支部主催によるリフレッシュ旅行を実施する。

スケジュールは下記のとおりとする。

(1) 2003年度日本興亜福祉財団支部交流・研修会の内容説明

(2002年度代議員会)

(2) 開催支部の決定(2003年1月末)

(3) 開催内容の報告(2003年度総会)

(4) 支部リフレッシュ旅行の実施(6月より支部スケジュールに沿って順次開催)

以上の事業計画に沿って積極的な活動を推進する。2004年の国際会議の開催国として、ふさわしい組織の拡充と活動を推進していかなければならない。

(社)家族の会の活動範囲を介護家族への支援に限ることなく「予防からターミナルケアまで」幅広くとらえながら理事を中心にそれぞれの問題をとらえた専門委員会を設け、さらには介護の質の向上を求める各種の検討会、委員会に理事・世話人の立場から積極的にかかわっていく。(社)家族の会がぼけの人と介護家族の立場にたった発言・提言をして「ぼけても安心して暮らせる社会」に向けたより積極的な活動を推進する。